平成２８年度

「運営に関する計画」

最終評価

いまみや小中一貫校

大阪市立新今宮小学校・今宮中学校

平成２９年２月２２日

校訓

新今宮小学校	今宮中学校
・すすんで	・自主
・なかよく	・協調
・すこやかに	・健康

１．学校教育目標

「未来を創る地球人（ちきゅうびと）を育てる」

１．自ら学び自立できる人間を形成する。

（１）自分で判断し，行動できる人間

（２）責任感が強く，絶えず努力する人間

（３）自分を見つめ，自らを律することのできる人間

（４）心身共に健康で安全な生活ができる人間

２．互いに助け合い，より良い生活のできる集団を育成する。

（１）互いに助け合い，他人の痛みがわかる仲間

（２）互いに侵すことなく，侵さない仲間

（３）力を合わせ，住みよい環境が作れる仲間

２．重点目標

人間尊重の教育を基盤とし，児童生徒に集団の一員としての自覚を持たせ，知・徳・体の調和のとれた人間形成に努める。

いまみや小中一貫校　平成２８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１．学校運営の中期目標

現状と課題

平成２７年４月１日に大阪市で三番目の施設一体型小中一貫校として，開校したばかりである。

本校は西成区北東部にあり学校周辺の環境問題，社会的な問題等を多く抱えている。その中にあっても子どもたちは逞しく生きている。とは言え，生活の状況が厳しい子どもたちもまた多い。それだけに生活していくことが優先され，学習は二の次になりがちである。また，社会経験・体験が乏しい子どもも多い。

加えて，全市募集により校区外からの児童生徒が少なからず転入学してきたことによる影響については未知の部分も多く，学力について，あるいは人間関係についてなど様々な願いを持ってきていると思われる。臨機応変で幅広い対応が求められる。

中期目標

【視点 学力の向上】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「交流」「挑戦」「体験」を核とした学力向上の取り組みを行う。

○　ＩＣＴ機器を活用した授業を行い，多種多様な交流を通して思考力・判断力・表現力を育てる。

→　思考力・判断力・表現力を高められるようＩＣＴを活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「ＩＣＴ機器を活用した授業は楽しい」「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」と答える児童生徒の割合をそれぞれ７５％以上にする。

（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

○　児童生徒各自の興味関心に応じた「挑戦」を推進する。

→　自ら学ぶ姿勢をもつ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７５％以上にする。

（カリキュラム改革関連）

○　１年生からの英語学習に取り組み，体験を通してコミュニケーションツールとして活用していこうとする意欲を持った子どもの育成を図る。

→　１年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７５％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。　（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

本校の全市募集リーフレットに記載したように「みんなに優しいＵＮＩＶＥＲＳＡＬな学校」「先進のＧＬＯＢＡＬな授業」「一人一人の違いを大切にするＤＩＶＥＲＳＥな学級」に関わる取り組みを行う。

○　研究部の中に「道徳担当」を設置し，道徳教育を推進する。

→　道徳教育全体計画別葉を作成し，すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を毎年，実施する。（カリキュラム改革関連）

○　いまみや小中一貫校の特色を生かし，小中での児童・生徒の異学年交流を行い，高学年の児童・中学校の生徒の自己有用感を高め，低学年の児童のロールモデルとなるような取り組みを構築する。また，部活動を推進し，児童生徒の豊かな感性・情操を養うと共に小中の交流，地域との交流も進める。

→　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「学校生活で，自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を８０％以上めざす。（マネジメント改革関連）

○　区役所，地域と連携した防災教育を推進する。

→　毎年小中連携した防災教育を実施すると共に区役所，地域等と連携した防災訓練を実施する。（カリキュラム改革関連）（ガバナンス改革関連）

○　「みんなに優しいＵＮＩＶＥＲＳＡＬな学校」づくりを推進する。

→　毎年度末の教職員アンケートで「学級・学年・学校のユニバーサルデザイン化」が「進んでいる」と答える割合を７５％以上にする。（マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

○　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，平均値を大阪市平均値より上にする。（カリキュラム改革関連）

○　毎年度末の児童生徒アンケートにおいて，「毎日，起きる時間や寝る時間がほぼ決まっている」に対して，肯定的な回答の割合を７５％以上にする。（カリキュラム改革関連）

２．中期目標達成に向けた年度目標

【視点　学力の向上】

①　思考力・判断力・表現力を高められるようＩＣＴを活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて，１～４年生では「ＩＣＴ機器を活用した授業は楽しい」，５～９年生では「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」に対して，肯定的な回答の割合をそれぞれ７０％以上にする。　（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

②　自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「自分で目標を定め，目標に向かって，がんばることができた」に対して，肯定的な回答の割合を７０％以上にする。　（カリキュラム改革関連）

③　１年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７０％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。　（カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）

【視点　道徳心・社会性の育成】

①　道徳教育全体計画別葉を作成し，すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を今年度も実施する。　（カリキュラム改革関連）

②　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「学校生活で，自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を７５％以上をめざす。　（マネジメント改革関連）

【視点　健康・体力の保持増進】

①　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，小学校は走力に関する結果を，中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づける。　（カリキュラム改革関連）

②　年度末の児童生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，健康に気を付けて生活をしている」に対して，肯定的な回答の割合を５０％以上にする。　（カリキュラム改革関連）

３．本年度の自己評価結果の総括

【視点　学力の向上】

①について

学校教育アンケートにおいて，１～４年生では「６．電子黒板やタブレット PC を使った授業は楽しい。」の項目で，肯定的回答が８０％以上であった。（目標：７０％以上）

一方，５～９年生では「９．授業中，自分の考えや意見をまとめて発表することができた。」の項目で，肯定的回答が約６０％であった。（目標：７０％以上）しかしながら，「５．授業はわかりやすい。」「６．電子黒板やタブレット PC を使った授業は楽しい。」の項目では，肯定的回答は７５％以上となっている。日々の学習の工夫やＩＣＴ機器を活用した授業が効果的であったと考えられる。

今後，本校にとって，言語活動の充実が重要となる。例えば，児童生徒に「どのようにまとめるとよいか」「どのように表現するとより良いのか」など，調べ考えたことを表現する活動について工夫を凝らす必要がある。

②について

学校教育アンケートにおいて，「２５．自分で目標を定め，目標に向かってがんばることができた。」の項目で，肯定的回答が約８０％であった。（目標：７０％以上）

小学生は「放課後チャレンジ教室」，中学生は「元気アップテスト前学習会」に自主的計画的に参加し，一人ひとりが自分の課題を設定し，真摯に取り組み，その成果が十分に発揮されたためだと考えられる。

次年度もより多くの児童生徒が参加できるよう募集をするとともに，そこで行われる取り組みについても，さらなる工夫が必要である。

③について

学校教育アンケートにおいて，「７．英語は楽しく学習できている。」の項目で，全学年８０％以上であった。（目標：７０％以上）

小学校では，開校当初から英語を校内の研究教科と設定し，教材の開発及び指導の工夫を行ってきた。また，中学校の英語科でも，読み物教材を充実させたり，ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を展開したりするなど，日々の学習の在り方を工夫してきた。その成果が実を結んだと考えられる。

今後も児童生徒の実態を把握し，英語により興味関心を持つことができるよう指導の工夫・改善に努めていく。

【視点　道徳心・社会性の育成】

①について

本年度も道徳教育全体計画別葉を作成することができた。さらに，小学校では，昨年度同様に「勇気」の項目において，昨年度の実践を見直し，修正・改善し，全学年で研究授業を行うことができた。次年度も道徳の教科化を見据え，実践を積んでいく必要がある。中学校では，年間３５時間の授業時数を確保することを目標に取り組みを進める

ことができた。

今後，道徳が教科化されることを受け（小学校は平成３０年度，中学校は平成３１年度），さらなる指導の工夫や評価の在り方について研究していく。

②について

学校教育アンケートで「２６．他学年との活動で，自分は役に立ってうれしかった経験がある。」の項目で，肯定的回答が７３％であった。（目標：７５％以上）数値こそ下回っているが，運動会・体育大会や文化祭などの学校行事では，児童生徒が中心となって，自分の役割をしっかり果たす姿が見られた。概ね７割以上の児童生徒が自己有用感を感じているのも確かである。しかし，「他学年との活動」に注目すると，小中でのたてわり班による交流は１度しか行われなかった。

学校教育アンケートの保護者向け集計の結果を見ても，全体的に学校への肯定的回答が高い。学校に対して，保護者の関心も高く，小中一貫校ならでは取り組みに期待している面が少なからずあると思われる。次年度は，小中交流の在り方や意義についても検討する必要がある。

【視点　健康・体力の保持増進】

①について

平成２８年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，小学校は走力に関する結果，中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づけることができた。小学校では，体育の学習だけでなく，児童集会や休み時間の「みんな遊び」など学級の取り組みや生活指導部との連携などの成果が表れたと思われる。中学校では，体育の学習時に「走」「跳」の補強運動を行い，体力の向上を図ることができた。

今後も本校の児童生徒の体力・運動能力の実態を把握し，それに応じた指導の手立てを講じていきたい。

②について

学校教育アンケートで「３５．健康な生活がおくれるよう気をつける。」の項目で，肯定的回答が８５％以上であった。（目標：５０％以上）

さらに，学校教育アンケートの「１６．学校のきまりや約束を守っている。」「１８．おくれず登校している。」や保護者向けアンケートの「２９．学校だよりや学年だより，保健だよりなど各種の学校印刷物をよく読んでいる。」の結果を見ても，肯定的回答が概ね８０％以上であった。

学級担任の声かけ，児童生徒の委員会活動の取り組み，保護者の協力等による成果だと思われる。しかし，一方で，遅刻したりハンカチ・ティッシュを携行していなかったりする児童生徒もいる。今後も教職員・保護者・地域と連携を図り，活動を継続したり，取り組み内容を工夫したりして対応していく必要がある。

いまみや小中一貫校 平成２８年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　学力の向上】 ①　思考力・判断力・表現力を高められるようＩＣＴを活用し，年度末の児童生徒アンケートにおいて，１～４年生では「ＩＣＴ機器を活用した授業は楽しい」，５～９年生では「自分の考えや意見をまとめて発表することができた」に対して，肯定的な回答の割合をそれぞれ７０％以上にする。 （カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連） ②　自ら学ぶ姿勢を持つ児童生徒を育成し，年度末の児童生徒アンケートにおいて「自分で目標を定め，目標に向かって，がんばることができた」に対して，肯定的な回答の割合を７０％以上にする。（カリキュラム改革関連） ③　１年生からの英語教育に取り組むことで英語に慣れ親しむ子どもを育成し，児童生徒アンケートの結果で，７０％以上の児童生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいると答えるようにする。 （カリキュラム改革関連）（グローバル化改革関連）	A

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【ＩＣＴを活用した教育の推進】 電子黒板やタブレット等，ＩＣＴを学習活動で活用し，自分の考えをまとめたり，説明したりする力を高める。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　ＩＣＴ機器の活用回数を全活動時間の２０％以上にする。 ・　年間計画を作成し，実践研修会と学校公開を開催する。	B
取組内容②【自主的な学習習慣の向上】 漢検・数検・英検等各種検定に挑戦したり，各自の苦手な学習を克服したりする「チャレンジタイム」や自主学習を行う「放課後チャレンジ教室」（小学生対象），元気アップ事業を活用した「テスト前学習会」「サタディスタディ」（中学生対象）を設定し，基礎学力の定着に向上が見られるようにする。また，児童生徒自身が目標を設定し，目標達成のために粘り強く努力できる環境を整える。 （カリキュラム改革関連） **指標**　・　５年生から９年生までの５学年で，朝の時間帯などを活用し，各自年間	A

２０時間以上，チャレンジタイムを実施する。漢検・数検・英検等の検定情報を収集し，児童生徒が目標設定しやすくなるよう，掲示や提示の方法を工夫する。放課後の時間帯を活用した自主学習で，児童生徒が主体的に自主学習に取り組める体制を作り，年度末の児童生徒アンケートで「自分で目標を定め，目標に向かって，がんばることができた」と答える児童生徒の割合を７０％以上にする。	
取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】 実践を通して９年間を見通した小学校１年生からの英語教育カリキュラムを整備し，小中連携の新しい形を模索する。（グローバル化改革関連） 指標　・　英語教育を研究主題として挙げ，年間７回以上の授業研究会を行い，事前検討会・事後討議会等を通して教員の資質向上を図る。また，週３回１５分のモジュール学習を含めて小学校１・２年生は４５時間以上，３・４年生は６０時間以上，５・６年生は７０時間以上，英語教育を実践する。小中連携を進めるため，中学校教員が小学校の英語授業に関わり，９年間を見通した年間指導計画を作成する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【ＩＣＴを活用した教育の推進】

全学年でＩＣＴ機器の活用頻度は高くなっており，指標に挙げたように全活動の２０％以上の授業でＩＣＴ機器を活用した。また授業に際しては，指導者が活用方法や機器整備についてＩＣＴ支援員に助言を仰ぐ場面が多くあり，ＩＣＴ支援員が授業実践で果たす役割は大きい。その結果，アンケートでは小学生の９０％程度，中学生の８０％程度が「電子黒板やタブレット端末を使った授業が楽しい」と回答しているように，学習への興味関心を一定程度得ており，学習意欲を高める役割は十分果たしている。

一方で，小学生高学年以上の目標である「自らの考えや意見をまとめて発表できた」と回答した児童・生徒が６０％程度にとどまっており，目標に達していない。今後は，児童・生徒の学習に対する達成感や自己肯定感を高めるために，授業での「まとめる」「表現する」場面での効果的な活用を検討していく必要がある。

取組内容②【自主的な学習習慣の向上】

児童生徒アンケートにおいて，「自分で目標を定め，目標に向かってがんばることができた」と回答する児童生徒が目標の７０％を大きく上回った。小学校の「放課後チャレンジ教室」，中学校の「元気アップテスト前学習会」は，計画的継続的に進めることができた。苦手な学習を克服する問題や発展的な問題など，各自が目標をもって取り組むことで，自主的な学習習慣の向上につながったと考えられる。

各種検定対策としては，漢検・英検の教材を購入し，漢検では，５・６年生の漢字学習を行う「チャレンジタイム」，希望者を対象とした「漢検プレ講座」に取り組んだ。英

検では，希望者を対象に小中合同の事前学習会に取り組んだ。また，年間を通して定期的に英検の面接練習を実施することができた。学校全体で各検定に取り組むという雰囲気や意欲が高まったことで，受験にかかる費用が個人負担だったにも関わらず，本校を準会場として受験を実施することができた。

２学期には中学生が英検ＩＢＡを受験し，３学期には３年生から６年生の児童が英検Ｊｒ.や英検ＩＢＡを受験した。

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】

学校教育アンケートにおいて，「７．英語は楽しく学習できている。」の項目で，全学年８０％以上肯定的な回答があり，目標の７０％を大きく上回った。小学校で，英語教育を研究主題とした授業研究会を９回実施し，事後討議会では外部講師を招いて指導方法や教材開発など研修も行い，教員の資質向上を図ることができた。少人数での討議により具体的な方策が毎回のように提案され，非常に活気づいている。英語モジュール学習はクラスの実態に応じて工夫することもできてきた。中学校教員による小学校の英語授業への関わりも深まり，英語を共に教えていく雰囲気も出てきた。また，当初計画していた以上の英語学習の時間も確保した。中学校の英語科では，読み物教材を充実させたり，ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を展開したりするなど，日々の学習の在り方を工夫してきた。

次年度への改善点

取組内容①【ＩＣＴを活用した教育の推進】

- 今後，児童生徒の学習に対する達成感や自己肯定感を高めるために，授業での「まとめる」「表現する」場面での効果的な活用を検討していく必要がある。
- 次年度以降も，機器の活用や整備に関して専門的な知識や経験をもつ支援員のサポートが不可欠である。日々起こるトラブルの緊急対応にあたる人員が必要である。

取組内容②【自主的な学習習慣の向上】

- 小学校の放課後チャレンジ教室のあり方については見直し・検討していく。
- 放課後の検定対策等の取り組みについては，会議や教員研修で実施時間を確保するのが難しい現状がある。また，教員の過度な負担にならないように，体制を整えていく必要がある。
- 漢検・英検の積極的な受験を促していくために，検定情報を掲示する場の確保と提示の方法を工夫していく必要がある。
- 「自分で目標を定め，目標に向かってがんばる」児童生徒を育てるために，漢検・英検だけに限らず，色々な方法でチャレンジする場を提供していってはどうか。

取組内容③【外国語活動・英語教育の充実】

- 小学校低学年の英語の位置づけを明確にする。
- 英語教科化に備えて，文科省から示される指針に沿って，英語モジュール学習を含めた英語教育カリキュラムの改変を行う。

いまみや小中一貫校 平成２８年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　道徳心・社会性の育成】 ①　道徳教育全体計画別葉を作成し,すべての教科と道徳の指導項目を関連させる。また，道徳の教科化を視野に入れた実践のあり方を研究し，実践報告をもとに研修会を今年度も実施する。（カリキュラム改革関連） ②　小中合同の学校行事を実施し，児童・生徒アンケートの「学校生活で，自分は役に立ってうれしかった経験がある」の質問項目での肯定的回答の割合を７５％以上をめざす。（マネジメント改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳教育の推進】 道徳教育全体計画別葉の内容項目を全学年において作成し，実践の在り方を研究する。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　実践報告を中心とした，研修会を実施する。	B
取組内容②【国際理解】 世界の文化を知り，日本の文化を学び，違いを認め合い，平和の尊さを自らのものとする。（グローバル化改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートにおいて「世界や日本の文化を学び，違いを認め合うことの大切さがわかった」の肯定的な回答の割合を７０％以上にする。	A
取組内容③【自他の違いの認め合い，支え合う意識の育成】 異学年交流・活動を通して互いに認め合い，支え合う集団を育成する。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　たてわり活動を生かした，集会活動や交流活動を実施し，児童・生徒アンケートの「ペア学年と交流して楽しかった」の質問項目の肯定的な回答の割合を７５％以上をめざす。 ・　小学生の部活動参加の充実を図る。 ・　小中連携した防災教育として，区役所，地域等と連携した防災訓練を年１回以上実施する。	B

取組内容④【人権を尊重する教育】 ユニバーサルデザインの視点で教室環境や授業を見直し，学校のユニバーサルデザイン化の在り方を検討・共通理解する。　（カリキュラム改革関連） 指標　・　児童・生徒アンケートで「授業がよくわかる」の質問項目の肯定的な回答の割合を７０％以上にする。 ・　授業研究会において，ユニバーサルデザインの視点で検討・討議を行うようにする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【道徳教育の推進】

今年度，教科書の変更もあり，道徳教育全体計画別葉を全学年で加除訂正を行ってきた。結果，各教科・領域と道徳の指導項目を関連付けて指導することができた。

小学校では，昨年度同様に１－（３）「自由・勇気」の内容の教材を扱った公開授業が全学年で行われ，授業後には検討会ももつことができた。また，年度初めには実践報告会をひらき今年度の公開授業のまとめを行った。昨年度に引き続き指導案と実践報告書を冊子にまとめることで道徳教育の積み重ねを行っている。

中学校では，年間３５時間の授業時数を確保するために，教職員一丸となって取り組んだ。

取組内容②【国際理解】

年度末に実施した児童生徒アンケートの結果では，「日本や世界の文化を学び，平和の大切さがわかった。」の項目で肯定的回答の割合が５，６年生で９５．２％，７～９年生で９０％と目標の数値を大きく上回ることができた。また，昨年度よりも数値が上がっている。

各学年の実践については，小学校では生活科，総合的な学習の時間を中心に学習を進めた。低学年では，歌や遊びを通して中国や韓国・朝鮮，フィリピンの文化など子どもたちにつながりのある国の文化ついて，楽しみながら学ぶことができた。生活科では，昔から伝わる遊びを楽しみ，けん玉やお手玉，だるまおとしなど日本の文化を体験することができた。５年生では，韓国語・フィリピン語で習字をしたり，韓国・朝鮮，中国，フィリピンの料理を調理実習で作ったり，さまざまな取り組みを行った。今年度より，民族学級校内発表会を行い，テナムの会の活動を知り，韓国・朝鮮の文化に親しむことができた。テナムの会参加児童のがんばりを知り，クイズなどを通して韓国・朝鮮の文化について関心をもつ機会となった。参加児童もがんばりを認めてもらうことで，自身のつながりに誇りをもち，テナムの活動への意欲をもつことができた。また，中国から渡日してきた児童が中国語弁論大会に参加したことを児童朝会で紹介した。

中学校では，教科学習と関連づけて学習を進めた。また，１１月の文化祭では，民族学級「テナムの会」のプンムルの発表を行い，韓国・朝鮮の文化に触れることができた。８年生では在日韓国人問題の歴史やその背景などを生徒が受け入れやすいアニメを通し

て観賞し把握した。後日，ソンセムニムから教材の補足やご自身の体験したことをＩＣＴを活用して講演していただいた。

取組内容③【自他の違いの認め合い，支え合う意識の育成】

他学年との活動で，自分は役に立ってうれしかった経験がある，という質問項目に関して，肯定的回答が小学校高学年で７３％，中学校で７２％と目標の７５％には到達しなかった。しかし，当初目標では楽しかったという主観的感想より，役に立ってうれしかったという自己有用感に関わる項目に質問項目がなっているので，正確な数値は不明である。しかし，本来のねらいの自己有用感が７割以上の児童・生徒が感じられているのは大きな成果であると考えてよいと思われる。

たてわり班活動については，小学校では木曜日の児童集会を中心に１年生から６年生のたてわり活動が機会・内容とも充実させることができた。また，たてわり班を活用した学校行事（新今宮祭，交流給食など）も実施することができ，高学年児童の自己有用感を高める効果的な活動となった。

小中交流については年間で一度での活動になったものの小中交流の在り方を検討するよい機会とすることができた。しかし，小中交流する意義が全教職員で共通理解できていなかったり，時間を調整することが難しかったりした。

小学校の部活動への参加の充実については，部活動によって差があるものの，小学生が参加しやすい体制をどの部活動も検討・実施しており，内容，参加人数とも昨年度を上回っている。

防災訓練については，土曜授業を活用しての，区役所・地域と連携した防災訓練を実施できた。

取組内容④【人権を尊重する教育】

児童・生徒アンケートの「授業はわかりやすい」という質問項目では，肯定的回答の割合が小中ともに７０％を上回ることができた。各学年の児童・生徒の実態に応じて環境整備を工夫したり，ＩＣＴ機器などを活用してわかりやすい授業をめざしたりしてきた成果といえる。

小学校の授業研究会の討議会では，昨年の全体討議の形から，少人数グループでの討議→全体討議の形に変更した。その結果，話し合いが活発になり，発言する回数も増え，深まりある討議を行うことができた。色ふせんを使って視覚的に分かりやすく，整理してまとめることができたことも討議を深めることができた工夫のひとつと考える。

教職員アンケートの「ユニバーサルデザイン」の観点において，肯定的回答の割合は昨年の５５．８％から今年８７．９％に大きくあがっている。教室環境や授業の工夫などの結果と考える。しかし，特別支援学級に在籍する児童・生徒のための教室の確保や配置の工夫など改善が必要な点はまだある。

次年度への改善点
取組内容①【道徳教育の推進】 ・　道徳の教科化に向けての研修を深めていくことが必要である。特に評価の在り方や通知表での保護者などへの周知の在り方など研究を深めていく必要がある。しかしながら，国の方針が示されていないため，学校独自の実践が難しい。 ・　道徳の評価を行っていくにあたって，ワークシートの様式や道徳の時間の終末の在り方について研究していく必要がある。 **取組内容②【国際理解】** ・　小学校にも「テナムの会」を開設してほしいという要望が出ている。低学年の参加児童が増えてきたので，小中同じ内容で活動することも難しくなってきた。小学校にも開設し，二部制で実施できるようにしていく必要がある。 ・　小学校では，引き続き中国からの渡日児童が増えている。学校全体で日本語指導の必要な児童理解の研修や共通認識を行っていく必要がある。 ・　日本の文化を体験する学習では，ゲストティーチャーとして地域の方を招くことができるように地域との連携を図りたい。 **取組内容③【自他の違いの認め合い，支え合う意識の育成】** ・　年度当初は小中の児童・生徒の交流活動を計画していたが，十分に交流できたとは言い難い。学校パンフレットの改訂など学校運営の計画自体の再検討が必要である。また，実施していくのであれば，防災訓練と関連した意義が共通理解しやすい活動など内容を実施したり，毎週水曜日の５時限目を学級活動・ＨＲに１年生から９年生で揃えたりすることで，円滑な交流活動が行える環境づくりをしておく。 ・　小学校の集会活動はたてわり班活動の重要な部分を担っているものの１時間目の開始時刻に間に合わないなど課題もあるので，実施する時間帯や曜日の検討をする。 ・　部活動に関しては，小学生がより参加しやすい工夫と小中教職員の相互協力をさらにとれるように連携していく。 ・　防災訓練に関しては，高学年以上にとっては厳しい部分もあるので内容も含めて検討をしていく。 **取組内容④【人権を尊重する教育】** ・　特別支援学級に在籍する児童・生徒のための教室の確保や配置の工夫をする。 ・　荷物の整理と場所の確保をする。 ・　ユニバーサルデザインについての共通理解をする。

いまみや小中一貫校 平成２８年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点　健康・体力の保持増進】 ①　毎年度の「大阪市体力・運動能力調査」において，小学校は走力に関する結果を，中学校はすべての結果を大阪市平均値に近づける。 （カリキュラム改革関連） ②　年度末の児童生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，健康に気を付けて生活をしている」に対して，肯定的な回答の割合を５０％以上にする。（カリキュラム改革関連）	A

年度目標の達成に向けた取組内容，取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【体力向上への支援】 体育の授業の進め方，休憩時間の過ごし方等について，小中連携して取り組みを研究し，実践する。（ガバナンス改革関連） **指標**　・　体育の授業において，小学校は「走」の測定を行い，比較分析し，改善を行う。 ・　体育の授業において，中学校は「走」「跳」「投」の測定を行い，比較分析し，改善を行う。	A
取組内容②【体育的活動の充実】 運動部の活動の活性化や児童集会などでの運動的な取り組みを充実させ，運動に親しむ機会を増やす。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートで「体を動かしたり運動したりすることが好きである」の肯定的回答を６０％以上にする。	B
取組内容③【健康な生活習慣の確立】 児童・生徒の委員会活動を中心に「健康に気を付けて生活をする」ことの大切さについて日常的に呼びかける。（カリキュラム改革関連） **指標**　・　年度末の児童・生徒アンケートにおいて，「起きる時間や寝る時間が決まっていて，健康に気を付けて生活をしている」に対して，肯定的な回答	A

の割合を５０％以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【体力向上への支援】

小学校では，スポーツテストや運動会前の体育の授業において，各学年の実態に合わせた「走」の測定を行った。その結果を分析し，走力・持久力・技能の向上を図っていくために，体育学習のみならず休み時間においても「走」の運動を積極的に取り入れた。体育授業では，運動場の広さを活用し，個々の児童の運動量を確保することを目的とした学習内容が実施された。遊放時には，「みんな遊び」などの学級の取り組みや生活指導部との連携を図ることにより，運動場で積極的に遊び児童が増加した。秋に計測した平均タイムは，大阪市の平均タイムを上回ることはできなかったものの，ほぼ同等のタイムであったことから，全体的には児童の脚力や走力は向上している。また，体育学習においては，高学年を中心に中学校教諭との協業体制をとった。その結果，児童は技能に関かわる専門的なアドバイスや効果的な練習方法などを享受することができ，運動特性にふれながら意欲的に取り組む児童の姿が見られた。

中学校では，体育授業の補強運動において，「走」「跳」の内容を増やしながら体力の向上を図った。学期末に簡易な体力テストを実施し，体力の向上に対する意識付けをしている。また，７，８年生の女子に対して独自に行ったアンケートでは，「この１年間に体力がついた」と感じている生徒が８８％であった。

取組内容②【体育的活動の充実】

年度末の児童・生徒アンケートの体力面に関する項目（「よく体を動かし，体力がついたと思う。」）に対する肯定的な回答は，低学年が１００％，中学年が９６％，高学年が７７．４％，中学校が７９．１％となっており，いずれの学年も目標値である７０％を上回ることができた。

まず，小学校においてその要因を考えてみると，中学校の運動クラブに小学生も参加できる体制を整え，運動部の活動の活性化が図られたことが考えられる。さらには，児童集会では，縦割り班を活用し「なわとび」「ドッジボール」「鬼ごっこ」など運動的な取り組みを積極的に導入してきた。

次に，中学校における主な要因として，運動部における指導方法の工夫や球技大会などの運動的行事の積極的な導入などを挙げることができ，総体的に運動に親しむ児童・生徒が増加傾向にあると考えられる。

取組内容③【健康な生活習慣の確立】

小学校では，健康委員会の取り組みとして，毎週清潔検査を行い，月に一度，結果を掲示した。また，レモン石鹸の点検や補充で手洗い環境を整えたり，「正しい手の洗い方」や「手洗いの大切さ」を集会で発表したりした。保護者の参加もあり，意見をもらうことができた。中学校では，「手洗いの大切さ」についての保健指導を委員会の生徒中心に行い，「健康に気を付けて生活をする。」ことの大切さを呼びかけた。学級では，担任に

よる日々の声かけにより，ハンカチ，ティッシュの携帯が増え，丁寧な手洗いができるようになった。

強調週間でのがんばりカードの結果や児童・生徒アンケートの「起きる時間や寝る時間が決まっていて，健康に気を付けて生活している」という質問に肯定的な回答の割合を５０％以上にすることができた。

次年度への改善点

取組内容①【体力向上への支援】及び取組内容②【体育的活動の充実】

- 春と秋の２回を原則として体力テストを実施し，個々の児童・生徒が記録を比較しながら，運動能力を向上させようとする意欲付けを行う。
- 運動部に参加する児童・生徒を増やす。
- なわとびや駆け足など楽しみながら運動に取り組む機会や強調週間を設ける。
- 小学校では，十分な時間を確保するために集会の持ち方を考える。

（昼の時間の活用）

- 指標の項目を小中でそろえる。今年度では，「跳」「投」に関して、小はなかった。
- 中学校では，休み時間の使い方を再考し，運動したり読書したりする時間を確保する。
- 運動器具・用具（バスケットゴール）などを設置する。

取組内容③【健康な生活習慣の確立】

- 来年度も手洗いの大切さを中心に取り組みながら，児童，生徒に「健康に気を付けて生活する」ことを考えさせていく。
- 保護者の協力を得るためにも，学校保健委員会を開催し，健康の大切さを理解してもらう。
- 小学校では，手洗い強調週間の機会を増やして児童の意識の変化がわかるように工夫する。